

(特集) 大学改革の原点を探る

大学改革の進め方について

今 谷 憲 明

僕は、大学改革とは、先生側と生徒側とそれぞれの意識改革であると考え。つまり、先生側は、いかにして生徒にやる気をおこさせるか、生徒側は、いかにしてやる気をおこすかである。

ここでまず、先生側の意識改革について述べるにあたって、先生側に教えようという気が本当にあるのかということあげる。(全ての先生とはいえない。)確かに、大学の先生というのは、自分の研究テーマがあって、それに一生懸命にならざるをえないのは分かる。しかし、そのために授業の方を、そのついでに、と考えている先生が多いのではないだろうか。授業の方を重視して欲しいとまでは言わないが、自分の研究テーマと同じぐらいの熱意を持って、授業にあたって欲しい。そして、生徒側に、分かりやすくするために、それなりの板書をして欲しいと思う。板書がいやならレジュメを用意して来るとかの配慮が欲しい。ただ先生が、前でペラペラとしゃべっているだけでは、僕の経験上からも、授業は分かりにくく、そのため授業中に私語をしたり、授業をさぼるようになっていたりするようになる。このようなことを、先生側は頭に入れて、意識改革し、授業を進めてくれることを望む。

次に、生徒側の意識改革であるが、まず生徒側の意識の中に、大学に来ている理由として、大学卒業という資格が欲しいため、という人が多いのではないだろうか。そのためにできるだけ、単位の取りやすい先生の授業を選んで履習して、楽に単位をそろえて卒業したいという人が、ほとんどであろう。このことは僕にもあてはまることである。しかし、このような状況では、大学改革は

できないであろう。やはり、生徒がそれなりの目的意識を持って、授業を受けるようにならなければならないと思う。

その目的意識を持つために、僕はゼミの重視をあげたいと思う。ここで、ゼミの選び方について述べたい。今の生徒側がゼミを選ぶにあたって、あまりに情報が少なすぎるという点が問題となってくる。つまり、このゼミではどういう勉強をするのか、という情報をもっと伝えるべきではないだろうか。その上で、生徒側にゼミを選ばせるべきである。

こうして選んだゼミで、今度は、ゼミを活性化させねばならない。そのための1つの具体策として、昨年12月に僕達のゼミで出た日本学生経済ゼミナール大会といったものに積極的に参加したらどうか、ということをお願いしたいと思う。この日本学生経済ゼミナール大会というのは、それぞれの大学のゼミが、それぞれ1つの論文を持ちよって、その論文について、論議するといった主旨のもので、これに出るために、僕達のゼミは、3回生でゼミを始めてすぐに、取りかかりはじめ、論文を書き上げたわけではありますが、この論文を書くために、ゼミ生それぞれが、かなり勉強し、またパソコンを使うといったことにも接するようになり、ゼミの活性化にかなり役立ったと思う。

しかし、この論文を書くには先生方の協力が、どうしても必要になってくる。今回論文を書くにあたって、所属するゼミの先生はもちろん他のゼミの先生にも教えてもらいに行くといったことをしたのを考えてみても、全ての先生の協力を必要とする。こういったことを通して、先生と生徒の交流も深まるのではないかと考える。

そして、最後にこの大会に出てみての感想であるが、僕達のゼミは、他大学のゼミに比べて、あまりにも勉強不足であるといったことを痛感した。そしてこの大会に出ることにより、かなり勉強になったように思う。こういった経験からも、今の3回生以下の人達にも、こういった大会に参加することを勧めたいと思う。

また、こういった活動を通して、僕達の当面の目標である就職にも、どこかに役に立つのではないだろうか考える。こうした活動を通して、大学改革を

進めてはどうかということを挙げて、僕の意見を終えたいと思う。